

令和元年度 大阪府立高津高等学校 第3回学校運営協議会会議録

日 時 令和2年3月23日(月)

※教育庁よりの通知「新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、会議の開催日を3月2日以降に設定していた場合は、郵送やメール等により意見等を聴取することで、会議の開催に代えることができる。」により、第3回学校運営協議会については、メールにより意見等を聴取する形式で行いました。上記の3月23日はメールによる意見等の聴取が終了した日です。

出席者(メールにより意見等を聴取させていただいた委員)

森田 英嗣(大阪教育大学理事・副学長)
新崎 国広(大阪教育大学教授)
竹村 伍郎(NPO法人 まち・すまいづくり理事長)
浅田 千鶴(同窓会副会長)
中川 哲也(元PTA会長)
高谷 実穂(現PTA会長)

事務局 山崎 晃昭(校長)、藤原 隆志(教頭)、山崎 義文(事務長)、
伊勢田 佳典(首席)、山口 優(首席)

I. 学校からの資料送付

- ・平成31年度 学校経営計画及び学校評価
- ・令和2年度 学校経営計画及び学校評価
- ・令和2年度 大学等入試結果(中間報告)
- ・令和元年度 学校教育自己診断集計結果

II. 令和2年度学校経営計画の「めざす学校像」及び「中期的目標」については、学校運営協議会の全委員の皆様の承認を得ました。

III. 委員の皆様から聴取させていただいた意見等

(1)「平成31年度学校経営計画及び学校評価」について

①「学校教育自己診断」の結果では、多くの重要な指標が肯定率80%以上であり、全体として適切な学校経営がなされていると言える。

②ただし、「教室・廊下・トイレ等の環境は、学習の場にふさわしい」の項目の肯定率が、生徒で半数程度(49%)、保護者、教職員においても、過半数を超えているものの(それぞれ59%、53%)、十分に高い評価になっていないように見受けられた。

自由記述からもトイレへの不満が多く見られたことから、現状の把握と改善策が必要になる。改善策については、資金をかけて改装することだけを考えるのではなく、改善策の策定や実施について、生徒の参加も促し、自分たちで出来ることが何かを考え、実行する機会とすることも、教育上の意義があると思われる。

- ③努力目標として、京・阪・神の合格者人数があげられているが、これについてはわかりやすい尺度のひとつと考える。ただ、学校アピールの際に、希少な学校へ行った生徒のこともアピールに入れたほうが、高津の特色を表現できる可能性はある。例えば、外国の大学や専門の大学（音楽・美術・工芸）など。
- ④課題研究発表会に初めて参加させていただき、この学習スタイルによって培われる能力は大きいと感じた。専門指導ができるアドバイザーをもっと同窓生から募集したいと思う。
- ⑤体験型進路学習の職場訪問について、多業種にわたる卒業生を持つ同窓会も協力するので、少し門戸を広くして、多数の業種の中からセレクトするような形がいいのではないか。
- ⑥いじめ問題やトイレ問題については、対策されている窓口が保護者の皆様に伝われば、少しでも安心や満足に繋がると思う。

(2)「令和2年度学校経営計画及び学校評価」について

- ①「英語運用能力」について「英語に対する興味・関心、運用能力が向上したと回答した生徒の割合がR1年度に98%となっており、高水準である。R2年度も引き続き、98%以上の達成を目指されるとのこと、是非頑張ってください。
- ②文理学科1・2年生の外部連携事業への延べ参加者数が順調に増えており、R4年度まで1500人以上で維持し続けるとのこと、本校にふさわしい目標であるので、達成を期待する。
- ③「生徒の自主的活動の活性化」について「自治会活動に対する肯定率」が過去3年間60%台となっているが、R3年度までに70%の突破を目指すとの目標設定には、新しい工夫を期待したい。
- ④「研修の充実」について教員の「校内研修に関する肯定率」がH30年度に比べて10ポイント低下し、79%になっている点が気になった。研修のより一層の工夫を期待したい。